

日蓮大聖人御書全集

じょうどくほん こと

浄土九品の事

じょうどくほん　こと

浄土九品の事

なんぎょう　いぎょう　しょうどう　じょうど　ぞうぎょう　しょうぎょう
難行・易行、聖道・淨土、雜行・正行

しょぎょう　ねんぶつ
諸行・念佛

ほうねんぼう　りょうけん　しょぎょう　ねんぶつ　そうたい
法然房の料簡は、諸行と念佛との相対なり

にぎ　いち　しょうれつ　いち　なんい
二義あり。一には勝劣、一には難易

はいりゅう
廢立

いち　しょぎょう　はい　ねんぶつ　き
「一に、諸行を廢して念佛に帰せしめんがために、しかも諸行を説くなり」と

じよしょう
助正

に　ねんぶつ　じよじょう
「一に、念佛を助成せんがために、しかも諸行を説くなり」と

ぼうしよう
傍正

「三に、念佛・諸行の一門に約して、各三品を立てんがために、しかも諸行を説くなり」と

「もし善導に依らば、初めをもつて正となすのみ」

「至誠心・深心・回向發願心なり」

「大乗を読誦す」

「三種の心を發して即便ち往生す」

だいじょう
じょうほんじょうしよう
上品上生

「また三種の衆生有り。當に往生を得べし」

いち
じしん
こころ
もうもう
かいぎょう
ぐ
「一には慈心にして殺さず。諸の戒行を具す」

「二には大乗方等經典を読誦す」

法然房の料簡に云わく

「華嚴經・方等經・般若經・法華經・涅槃經・大日經・深

密經・楞嚴經等の一切の大乗經は、『大乗を読誦す』

の一句に摂め尽くす

上三品

「三には六念を修行す」

六念 仏・法・僧・戒・施・天

上輩

じょうはい

大乗の凡夫

だいじょう ぼんぶ

「第一義を解す」

だいいちぎ げ

大に値う

だい あ

上品中生

じょうぽんちゅうじょう

「善く第一義において義趣を解す」

よ だいいちぎ ぎしゆ げ

善根
ぜんこん

法然の料簡に云わく

「華嚴の唯心法界、法相の唯識、三論の八不、真言の五相成身、

天台の一念三千、皆『第一義を解す』の一句に摂め尽くす

法然の料簡

『因果を深信す』に十界の因果を摂め尽くす

中品上生 五戒・八戒乃至諸戒を摂め尽くす

小に値う

中二品

ちゅうさんぽん

中品中生

ちゅうほんちゅうじょう

八斎戒

はっさいかい

四阿含經・俱舍・成實・律宗はこの一品に摂め尽くす

中輩
ちゅうはい

小乘の凡夫
しょうじょう ぼんぶ

善人
ぜんにん

中品下生
ちゅうほんげしょう

「父母に孝養し、世に仁慈を行ふ」
ふば こうよう よ じんじ おこな

外典三千余卷
げでんさんぜんよかん

老子經
ろうしきよう

孝經
こうきよう

觀經
かんぎよう

下品上生
げほんじょうじょう

「かくのゞ」ときの愚人、多く衆惡を造る
ぐにん おお しゅあく つく

十念往生
じゅうねんおうじょう

觀經に云わく
かんぎよう い

下品中生
げほんちゅうじょう

「あるいは衆生有つて、五戒・八戒および具足戒を毀犯す。
ごかい はつかい じゅうそくかい

かくのゞときの愚人は、僧祇物を偷み、現前僧物を盜む。
ぐにん そうぎもつ ねす げんぜんそうもつ ねす

不淨に法を説いて懺愧有ることなし」

下輩
げはい

下三品
げさんぽん

悪に値う
あく あ

一向□
いつこう

□□云わく
い

「下品下生はこれ五逆重罪の人なり。しかも能く逆罪を

除滅するは余行に堪えざるところなり。

た

ただ

能く逆罪を

堪えざる

ところ

なり。

故に、

極悪最下の

力の

から

能く重罪を

滅するに堪えたり。

た

めつ

み有つて能く重罪を滅するに堪えざるところなり。

よ

た

能く重罪を

滅するに堪えざるところなり。

人のために、しかも極善最上の法を説く

ひと

と

た

能く重罪を

滅するに堪えざるところなり。

よ

た

能く重罪を

滅するに堪えざるところなり。

よ

た

能く重罪を

滅するに堪えざるところなり。

よ

た

能く重罪を

滅するに堪えざるところなり。

よ

た

能く重罪を

下品下生
げほんげしょう

五逆罪の人
ごぎやくざいひと

十念往生
じゅうねんおうじょう

選択に云わく
せんちやくい

「念佛三昧は重罪すらなお滅す。いかにいわんや軽罪をや。
ねんぶつざんまいじゅうざい

余行はしからず。あるいは軽を滅して重を滅せざるあり。
よぎょうめつじゅうめつ

あるいは一を消して二を消せざるあり」等云々
いちしょうにしようとううんぬん

法華經等の一切經
ほけきようとういつさいしよぶつ

釈迦仏等の一切の諸仏
しゃかぶつとうはつしゅうくしゅう

天台宗等の八宗・九宗
てんだいしゅうとうはつしゅうくしゅう

世天等
せてんとう

捨閉閣拋
しゃへいかくほう

じょうどさんぶきょう　あみだぶつ　ほか
浄土三部經・阿弥陀仏よりの外なり

あんらくしゅう　い
安樂集に云わく

「いまだ一人も得る者有らず」

「ただ淨土の一門のみ有つて通入すべき路なり」

おうじょうらいさん　い
往生礼讚に云わく

せん　なか　ひと　な
「千の中に一りも無し」

じゅう　すなわ　じゅうしょう　ひやく　すなわ　ひやくしょう
「十は即ち十生じ、百は即ち百生ず」

ちょうらくじ　な　む
長樂寺 南無

いち　でし
一の弟子 でし

りゆうかん
隆寛

たねん
多念

ごさがほうおう
おんし
後嵯峨法皇の御師

どうかん
道觀

けんにんねんちゅう
建仁年中

いち
いの弟子
でし

ぜんね
こさか
善慧 小坂

ごとばいんのぎょう
けいりゆういんのぎょう
後鳥羽院御宇

こうつのみやにゅうどう
つくし
筑紫

いくらくじど
おんし
極樂寺殿の御師

しゅかん
修觀

げんくう
源空

いち
いの弟子
でし

しょうこう
聖光

ねんあみだぶつ
然阿彌陀仏

じゅかん
おんし
極樂寺殿の御師

ほうねんぼう
法然房

いち
いの弟子
でし

ほうれん
法蓮

しおり
ねんあみだぶつ
然阿彌陀仏

じゅかん
おんし
極樂寺殿の御師

しょぎょうおうじょう
しそうじょう
諸行往生

いち
いの弟子
でし

かくみよう
覺明

どうあみ
道阿弥

嵯峨 さが

聖心 しょうしん

成覚 じょうかく

一念 いちねん

法本 ほうほん

顕真座主 けんしんざす
はちにん
八人の碩德 せきとく

頼兼僧正の御師 らいけんそうじよう
おんじょうじ
ちょうり

園城寺の長吏 えんじょうじ
おんじょうじ
ちょうり

公胤大式僧正 こういんたいしじやう
じょういんだいにそうじよう

淨土決疑集三卷を造つて法然房の選択集を破す じょうとうけつぎしうさんかん
つく
ほうねんぼう
せんちやくしゅう
は

隨機の諸行もて皆往生をなすべし等云々 ずいき
しょぎょう
みなおうじよう
とううんぬん

故宝地房法印証真の弟子

こうづけきよい もの

上野清井の者

定真豎者 弹選択二巻を造る。

隨機の諸行もて往生す

証真の嫡弟

竹中法印

宗源法印

隆真法橋

証義者

大和莊

やまとのしよう

俊範法印 梢生

すぎう

三千塔の總學頭

さんとう

三千人の大衆

さんぜんにん

だいしゅう

聖覺
せいかく

五人ごにんの探題たんだい

貞雲
じょううん

隆承
りゅうしよう

華嚴宗
けごんしゆう

とがのおの
梅尾めいお

明惠房
みょうえぼう

摧邪輪三卷ざいじやりんさんかんを造る。隨機づいきの諸行しょぎょうもて往生おうじょうす

深密經じんみつきように依る
よ

法相宗
ほっそうしゆう

三時教さんじきょうもて一代いちだいを攝め尽くし、返つて深密經じんみつきようをもつて法華經ほけきようを下す

般若經・妙智經等はんにゃきょうに依る
よ

三論宗 二藏・三時もて一代を摂め尽くし、返つて妙智經をもつて法華を下す

華嚴經等に依る

大乘の五宗
華嚴宗

五教もて一代を摂め尽くし、返つて華嚴經をもつて法華を下す

大日經・六はら蜜經に依る

真言宗

五藏もて一代を摂め尽くし、返つて大日經等をもつて法華經を下す

天台宗

四教・五時もて一代を摂め尽くす

「県の額を州に打つ」

「牛跡に大海に入る」

伝教大師、この義を許すや不や

「夫れ、三時の教は勝義の領解、一了の聞は義生の機宜なり。なお三了を覗く。
そ
さんじ
きよう
しょうぎ
りょうげ
いちりょう
もん
ぎしよう
き
ぎ
さんりょう
か

何ぞ一代を摂めん」
なん
いちだい
おさ

華厳云わく、三論云わく、真言等云わく
けごんい
さんろんい
しんごんとうい